

# Techno Report

## 【冷媒ガス漏洩時の限界濃度】

パッケージエアコンを据え付ける部屋は、万一ガス漏れが発生しても、冷媒ガスの室内濃度が限界濃度を超えないようにする必要があります。特に1台の室外ユニットと長距離配管で、複数の室内ユニットを接続するマルチタイプエアコンでは、冷媒封入量が多くなる傾向があります。

都合により部屋を狭く分割するような場合には、万一冷媒ガス漏れが発生しても支障なく緊急措置がとれる限界濃度以下となることを確認し、限界濃度を超える場合には換気対策を行う必要があります。

### 限界濃度を超える冷媒ガス漏れのイメージ



#### 限界濃度

限界濃度とは、冷媒ガスが空気中に漏洩したときに、人身に支障なく緊急措置が行える冷媒ガス濃度の限界を言います。

R410Aの限界濃度: 0.30kg/m<sup>3</sup>

R-22, R-407C, R-410Aなどの冷媒ガスは、裸火や高温に熱せられた物に接触すると熱分解し、有毒ガスを発生して人体に悪影響を及ぼすこともあり危険です。専門業者によるガス漏れ点検を受けて、事故を予防しましょう。

#### 換気対策例

隣室との間に換気に有効な開口部 (ドアのない開口部、またはドアの上部及び下部にそれぞれ床面積の0.15%以上の開口部をもつもの) を設ける。

#### 酸素濃度が低下すると

